

履修証明プログラム要項

平成28年度



TEIKYO

帝京大学産業保健高度専門職養成の 大学院プログラム

目 次

1. 事業概要	3
2. 教育方針	4
3. 人材別の達成すべき能力	5
4. 受講期間	7
5. 研究指導教員（アカデミックアドバイザー）	7
6. 長期履修制度	7
7. 受講料・その他の経費について	7
8. 受講科目申請の届け出等について	8
9. 授業科目の履修について	9
10. 授業科目の概要	10
11. 主な年間スケジュール	13
12. 実習について	13
13. その他の留意事項	14
14. 教員一覧	16
15. 授業時間割	18
16. 授業計画（シラバス）	21
17. 受講科目申請書（見本）	38
18. 受講科目変更届（見本）	39

1. 事業概要

「履修証明プログラム」とは

平成19年の学校教育法の改正により、大学等における「履修証明制度」が創設された。これは、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を受講することにより、キャリアアップ、専門性の向上、再就職、資格試験の勉強などに活用できる制度である。学位取得に比べより短期間で修得することができるという利点がある。

修了要件を満たした場合には、学校教育法に基づき本学より「履修証明書」を交付する。

「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」とは

大学院と産業界等が協働して、社会人のキャリアアップに必要な高度かつ専門的な知識・技術・技能を身につけるための大学院プログラムを構築し普及する取組を通じて、成長分野等における高度人材養成を図るとともに、社会人の学び直しを全国的に推進する文部科学省主催の事業である。

「帝京大学産業保健高度専門職の大学院プログラム」とは

産業構造・雇用構造の変化を受け、専門性を持った産業医あるいは高度な能力を持つ産業保健師の不足が指摘され、とくに出産・育児期間を経た女性医師あるいは産業保健師の再教育の充実が求められ、今後新たな人材需要が望まれている。本事業は、「医療・福祉・健康分野」で、特に女性の活躍する機会の多い産業医、産業保健師、安全管理者・衛生管理者等の「学び直し」や「リフレッシュおよびキャリアアップ」に力点を置き、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラムの「履修証明プログラム」として、産業保健分野の高度人材の養成を目的とする。ハイレベルな行動特性・問題解決能力を身に付けることを重視したコンピテンシー基盤型教育（CBE）に基づき、様々な産業保健上の諸課題に対して、指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができ、その活動を統括指導できる産業保健の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ高度専門職業人の養成を目指す。

2. 教育方針

産業保健プログラムの履修証明書授与に要求される知識・能力を修得するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

- I. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学のおよび統計的な思考と産業保健マインドを涵養するため、「疫学」、「生物統計学」、「産業保健学」の基礎3科目を必修科目として設定する。
- II. 現場の課題を掘り起し、その課題を科学的に分析し、対策を検討し、コミュニケーション能力を高めて職場を巻き込み、実施に至るまでのリーダーシップをとれるように、現場の課題を研究する「実地研究」を必修科目とする。
- III. 産業医、産業保健師、技術系の安全管理者・衛生管理者あるいは労働衛生コンサルタントのそれぞれのリフレッシュ・レベルアップを図るため、夏期にそれぞれに特化した特別講義を設ける。
- IV. 海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、世界的権威であるハーバード大学教授陣等による「特別講義(冬期集中)」を設ける。

3. 人材別の達成すべき能力

産業保健プログラムでは、現場で発生する産業保健上の諸問題に対して指導的立場で問題解決型の対処ができる以下のような高度専門職業人の養成を目指している。

1. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医療・保健を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
2. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based Medicine)に必須である疫学を修得することにより、科学的医療・保健を実践できる専門的な技術と指導力を有している。
3. 医療・保健の様々なデータについて生物統計学的に解析し、種類や分布の特徴を理解し、要約や表示方法等により、実際の現場で説得できる専門的な技術と指導力を有している。
4. 予防、診断・治療、職場・社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを包括的に理解し、それを医療・保健の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
5. 公衆衛生学の見地に立って、身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を理解した総合的医学や全人的医療・地域医療を含めた公衆衛生活動が実践できる専門的な技術と指導力を有している。

また、高度専門職養成という観点から、求められる養成人材別の達成すべき能力要件は以下のようなになる。

【総括産業医・労働衛生コンサルタント】

単に医療機関から産業現場に場を移した医療活動というのではなく、環境要因が強く関わり、医療の場とは異なった領域の法律制度や会社組織の論理も深く理解し、組織全体の健康意識を上げる（ヘルシーカンパニーを作る）活動ができる能力を身に付ける。その中には産業医学の高度な専門家である労働衛生コンサルタントの資格を取得する（試験に合格する）だけでなく、産業現場で発生する新たな問題を自ら調査・研究し、その解決ができる能力も含まれる。

【産業保健師】

企業における産業保健業務を遂行するに当たっては多種様々な能力が要請されることから、職場の産業保健課題を抽出し、対策案を考え、他職種と合意形成を図り、対策実施をリードし、対策実現ができる能力を獲得する。すなわち、職場の個人の問題を超え、職場、工場あるいは事業場全体の健全性をアセスメントし、対策を検討し、その対策案を実施するための科学的分析能力、コミュニケーション能力およびリーダーシップ・マネジメント能力を獲得する。

【安全管理者・衛生管理者】

作業環境の有害要因の測定および管理で現在行われている作業環境測定の仕事み排気システムを学習し、さらに有害要因へのばく露レベルの測定方法についても学習し、結果として選択すべき対策方法を理解する。さらに、新規有害要因への対応としてのリスク管理の適用能力を獲得する。

【様々な産業保健専門職】

それぞれの産業保健の専門職として、職場の該当する産業保健課題を抽出し、対策案を考え、他職種と合意形成を図り、対策実施をリードし、対策実現ができる能力を獲得する。

授業科目と問題解決能力（コンピテンシー）の関係

区分	授業科目	問題解決能力（コンピテンシー）			
		科学的解析力	コミュニケーション	リーダーシップ	マネジメント
必修科目	疫学概論	A, B, C			
	基礎生物統計学	A, B, C			
	産業保健学	A, B, C			
	産業環境保健学実習（産業保健高度人材養成実習）	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
	実地研究	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
選択科目	産業環境保健学概論	C			
	産業中毒学	A			
	リーダーシップ・マネジメント論		A, B, C	A, B, C	A, B, C
	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）		A, B, C	A, B, C	A, B, C
	特別講義（労働衛生技術の能力育成）			A, B	A, B
	特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）	B	B	B	B
	特別講義（産業環境保健学）		A, B, C		A, B, C
	環境アセスメント実習	A, B, C			
実践特別セミナー（統括産業医養成）	A	A	A	A	

養成人材：産業医（A）、産業保健師（B）、安全衛生管理者等（C）

4. 受講期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間とする。ただし、長期履修制度を利用の場合は、平成28年4月1日から平成30年3月31日までの2年間とする。

受講の延長は原則認められない。

5. 研究指導教員（アカデミックアドバイザー）

受講生の受講科目の選択や学期中の勉学支援（授業の復習・補習等）、ならびに実地研究の相談、指導など多様な受講生ニーズに対応するため、特定の教員が研究指導教員（アカデミックアドバイザー）として一人一人の受講生に対してマンツーマンで支援する。

具体的には、受講科目設定時において担当研究指導教員（アカデミックアドバイザー）による助言をもとに受講科目を決定できるよう個別に支援する。社会人の方に対する指導時には、修了要件や個人の目標に影響を与えない範囲で、職務への負担軽減を考慮しなるべく授業のない時間帯の確保に努める。

6. 長期履修制度

長期履修制度とは、就業等の兼ね合いにより1年間での履修が困難な場合、事前の申し出（出願時に限る）により2年間に延長できる制度である。年度の途中での変更はできない。尚、長期履修者で受講期間の短縮を希望する者は、研究指導教員（アカデミックアドバイザー）に相談するとともに、事務部教務課まで申し出ること。

7. 受講料・その他の経費について

受講料は年間10万円となります。長期履修の許可を得た者は2年間で10万円となる。尚、既納の受講料は如何なる理由があっても返還しない。

保険は任意で加入することができる。（詳しくは、事務部教務課まで）

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険（感染予防等）

8. 受講科目申請の届け出等について

(1) 受講科目の申請方法

その年度内に受講を希望する科目を選び、所定の用紙（受講科目申請書）で受講を申し込むことが必要である。尚、受講科目については、事前に研究指導教員（アカデミックアドバイザー）と相談の上、指導を受けること。受講科目申請書の提出期限は4月21日までとなるので、期日までに必ず提出をすること。

(2) 受講科目の変更

受講科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の受講を希望する場合）には、研究指導教員（アカデミックアドバイザー）と相談して、所定の用紙（受講科目変更届）で届け出を行う必要がある。尚、年次途中に新たな科目の受講を希望する場合には、その科目の受講が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせること（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

(3) 実地研究について

受講生は、研究指導教員（アカデミックアドバイザー）の指導のもと、実地研究を行い、その成果を発表する（中間発表、最終発表）。研究成果は、実地研究報告書という形で執筆する。研究テーマやその具体的な内容については、研究指導教員（アカデミックアドバイザー）とよく相談し、またその指導を受けること。

尚、具体的な流れ、スケジュールについては別途ガイダンスが行われる。

※ 上記（1）～（3）の届け出の提出先は事務部教務課（大学院担当）となる。

9. 授業科目の受講について

(1) 授業科目

区分	授業科目	授業形態	コマ数	時間数
必修科目	疫学概論	講義・演習	15	90時間
	基礎生物統計学	講義・演習	15	
	産業保健学	講義	15	
	産業環境保健学実習（産業保健高度人材養成実習）	実習	15	
	実地研究	実習	30	45時間
選択科目	産業環境保健学概論	講義・演習	8	12時間
	産業中毒学	講義・演習	8	12時間
	リーダーシップ・マネジメント論	講義・演習	8	12時間
	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）	講義（集中）	8	12時間
	特別講義（労働衛生技術の能力育成）	講義（集中）	8	12時間
	特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）	講義（集中）	8	12時間
	特別講義（産業環境保健学）	講義（集中）	8	12時間
	環境アセスメント実習	実習	8	12時間
	実践特別セミナー（統括産業医養成）	演習	8	12時間

(2) 修了要件

- ①必修科目 5 科目（実地研究を含む）及び選択科目 2 科目以上の合計 159 時間以上を受講すること。
- ②必修科目の実地研究において、研究報告が基準レベルを達成すること。

(3) 授業時間割

授業時間	時間
1 時限	9 : 00～10 : 30
2 時限	10 : 45～12 : 15
3 時限	13 : 15～14 : 45
4 時限	15 : 00～16 : 30
5 時限	16 : 45～18 : 15

(4) 単位について

単位の付与および学位（修士号）の修得はできない。修了要件を満たした受講生には、学校教育法に基づき本学より履修証明書を交付する。

10. 授業科目の概要

① 疫学

近年の医療において常にその重要性が指摘される EBM: Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) は、臨床疫学から派生したものであり、過去の疫学的研究等の成果を体系的に利用することで現在の医療行為を評価し、より適切な医療を指向するための技法である。すなわち、適切な医療を目指すためには EBM の技法を用いることが極めて有益であると同時に、一方で EBM を賢明に使いこなすためには土台である臨床疫学の深く幅広い理解が不可欠であると言える。また、医療に関連した知見が証拠 (エビデンス) となるためには、発生した結果として示されることが必要であり、またそれが偶然の結果ではないことを示すためには、集団における結果として示されることが必須である。加えて倫理面での考慮が必要な人間集団での結果の解析による証拠の提示においては、データの収集や解釈における専門家としての高度な技能および適正な注意が求められる。このことは実に疫学の方法論そのものを理論的かつ実践的に学ぶことの重要性を示しており、疫学の専門家のみでなく、公衆衛生に関わるすべての専門領域において基本的な対象認識と問題解決の基礎理論として重要な科目である。

公衆衛生学研究科の科目区分には、「疫学概論」、「臨床疫学概論」といった理論講義と共に演習を含む実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (疫学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。本履修プログラムでは、「疫学概論」を必修科目としている。

② 生物統計学

厚生労働省が発表した平成15年度重点新規施策「治験活性化プロジェクト」においても指摘があるように、わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足している。また、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師や臨床試験看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できていない。臨床試験の実効性を担保するためには、専門的な統計手法を駆使し試験計画を立案し試験結果を科学的に解析・評価できる人材、ならびに新薬の承認に関する規制や手続においてガイドラインを遵守しながら臨床試験を統括できる人材、さらには計画書作成や実施運用の面から積極的に支援できる人材の養成が必要となる。

そこで、公衆衛生学研究科の科目区分には、「基礎生物統計学」、「応用生物統計学」、「臨床試験概論」といった理論講義 (「基礎生物統計学」には演習を含む) の他に、「データ解析演習」、「臨床試験演習」といった演習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (生物統計学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

本履修プログラムでは、「基礎生物統計学」を必修科目としている。

③ 産業保健学

産業保健については国全体の疾病構造が大きく転換するとともに中高年労働者が増加してきた結果、職域においては感染症に代わって循環器疾患やがんがより大きな問題になってきた。現代における化学プラントや建築現場などの職域で発生する健康障害に対しては、業務起因性の判断といった疫学的検討が求められる。また技術革新、産業構造の変化にともなう作業態様の多様化、心理的ストレスの増大などが無視できない状況となってきている。自殺の原因となるうつ病では多くの患者が疲れ、不眠以外に、吐き気、動悸といった身体症状を訴え、重症になるケースも多い。逆に体の病気でも心の問題、ストレスで症状を悪化させたり発症を誘発したりする。治療、予防のためには患者の心身両面から状態を把握する必要がある。そのためには、職場のメンタルヘルスについて科学的根拠に基づく有効な予防法が不可欠である。同時に、産業保健の専門家として関連法規や制度、ならびに衛生管理組織といった実務運営のための専門知識と管理能力も必要とされる。

このような状況に対して、現場で中心となって活動するのは産業医と産業保健師であるが、独立的に実務に対応できるだけの系統的養成が不十分であるのが現状である。作業環境測定士、衛生管理者等の養成に関しても同様のことが言えよう。

そこで、「産業環境保健学概論」、「産業中毒学」、「リーダーシップ・マネジメント論」といった理論科目においても、アジア地域での共同研究の事例紹介や科学・物理系関係講座の環境衛生専門家と協同で、環境測定のデザインと測定の実施、環境影響評価と改善計画の立案といった実践目的に沿った内容も含まれている。加えて「産業環境保健学実習（産業保健高度人材養成実習）」（擬似環境での模擬実習）といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。

④ その他

夏期に「特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）」、「特別講義（労働衛生技術の能力育成）」、「特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）」、「環境アセスメント実習」、「実践特別セミナー（統括産業医養成）」といった選択科目を設けている。

リフレッシュ・レベルアップのための科目として、産業医向けに「実践特別セミナー（統括産業医養成）」、産業保健師向けに「特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）」、「特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）」、「環境アセスメント実習」、安全管理者や衛生管理者向けに「特別講義（労働衛生技術の能力育成）」および「環境アセスメント実習」を設けている。

さらに、海外からの招聘教授による「特別講義（産業環境保健学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

⑤ 実地研究

産業現場で発生する産業保健上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場として問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として実地研究を行う。

実地研究における問題解決型の対処（問題解決型アプローチ）とは、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することを意味する。具体的な問題解決型アプローチは、課題形成、問題の分析、解決策立案、解決案特定、および評価の項目で構成されている。実地研究の発表、報告書はこの項目に沿ってまとめることになる。

到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な実地研究として取組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考えられるため、研究期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家（研究指導教員）との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

したがって、実地研究を担当するアカデミックアドバイザーにより特定の研究課題について個別に研究の実践、指導がなされ、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て実地研究報告書を作成する。成績評価については、この報告書を審査して決定される。実地研究の期間中に特定の調査や分析等の作業を行った場合には、調査結果や分析結果も含めて審査される。いずれの場合においても、実地研究達成までのプロセスも審査の対象となる。

なお、実地研究の指導方法、発表スケジュール、評価内容等については、学期中の適切な時期に受講生向けに別途ガイダンスを実施する。

11. 主な年間スケジュール

オリエンテーション	4月1日（金）午後
受講科目・実地研究相談期間	4月1日（金）－ 4月21日（木）
前期授業の期間	4月12日（火）－ 8月3日（水）
履修届けの提出期限	4月21日（木）
実地研究テーマ提出期限	5月27日（金）
創立記念日	6月29日（水）
夏期特別講義（集中講義）の期間	7月23日（土）－ 8月31日（水）
実地研究 中間発表会	9月初旬（予定）
後期授業の期間	9月21日（水）－ 2月8日（水）
冬期特別講義（集中講義）の期間	1月（予定）
実地研究報告書 一次提出	1月末（予定）
実地研究 最終発表会	2月中旬（予定）
実地研究報告書 最終提出期限	3月4日（土）
履修証明書の交付	3月中旬

12. 実習について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行わなければならない。

（1）万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

①次のいずれかへ連絡すること。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294（直通）

②事故の報告書の提出（様式任意）が必要である。

13. その他留意事項

(1) 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報(大雨、洪水警報のみは除く)、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従うこと。

1. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

2. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受けること。

(2) 受講の取り消しについて

本学の規程または諸規則に違反した場合や反する行為があった場合には、本プログラムの受講を取り消すことがある。

(3) 貸与備品等を紛失、破損した場合

本学で貸与するパソコンや使用備品等を紛失した場合、また故意に破損した場合には、修理費用および紛失した場合の費用は自己負担とする。

14. 教員一覧

◆専任教員

氏名	役職	所属	授業科目
山岡 和枝	教授 (研究科長)	公衆衛生学研究科	疫学概論 基礎生物統計学
矢野 榮二	教授	公衆衛生学研究科	疫学概論 産業環境保健学概論 産業中毒学
谷原 真一	教授	公衆衛生学研究科	産業保健学 実践特別セミナー(統括産業医養成)
中田 善規	教授	公衆衛生学研究科	リーダーシップ・マネジメント論
原 邦夫	教授	公衆衛生学研究科	産業保健学 産業環境保健学概論 特別講義(労働衛生技術の能力育成) 産業環境保健学実習(産業保健高度人材養成実習) 環境アセスメント実習
福田 吉治	教授	公衆衛生学研究科	疫学概論 産業保健学 産業環境保健学概論 特別講義(メンタルヘルス専門職のスキルアップ) 産業環境保健学実習(産業保健高度人材養成実習) 実践特別セミナー(統括産業医養成)
松浦 正明	教授	公衆衛生学研究科	基礎生物統計学
宮川 宗之	教授	医療技術学部 スポーツ医療学科	産業中毒学
山崎 恭子	教授	医療技術学部 看護学科	特別講義(メンタルヘルス専門職のスキルアップ) 特別講義(産業保健師マネジメント能力育成)
高橋 謙造	准教授	公衆衛生学研究科	産業環境保健学実習(産業保健高度人材養成実習)
野村 恭子	准教授	衛生公衆衛生学講座	疫学概論
根本明日香	講師	公衆衛生学研究科	基礎生物統計学
桑原 恵介	助教	公衆衛生学研究科	疫学概論

◆非常勤教員

氏名	役職	授業科目
Stefanos Kales	客員教授	特別講義（産業環境保健学）
小木 和孝	客員教授	産業保健学 実践特別セミナー（統括産業医養成）
丹後 俊郎	客員教授	基礎生物統計学
吉川 徹	客員准教授	産業保健学 産業環境保健学概論 特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ） 特別講義（労働衛生技術の能力育成） 環境アセスメント実習
石川ひろの	非常勤講師	リーダーシップ・マネジメント論
中原 浩彦	非常勤講師	産業環境保健学概論 産業中毒学 環境アセスメント実習
東川 麻子	非常勤講師	産業環境保健学概論
伊藤 雅代	特別講師	特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）
掛本 知里	特別講師	特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）
熊谷 信二	特別講師	産業中毒学
神山 宣彦	特別講師	産業環境保健学概論
杉澤 誠祐	特別講師	産業保健学 産業環境保健学概論 産業中毒学 特別講義（産業保健師マネジメント能力育成） 産業環境保健学実習（産業保健高度人材養成実習） 実践特別セミナー（統括産業医養成）
高辻(戸谷)由布子	特別講師	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ） 特別講義（産業保健師マネジメント能力育成） 実践特別セミナー（統括産業医養成）
竹内由利子	特別講師	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）
磨田百合子	特別講師	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ） 特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）
橋本 晴男	特別講師	特別講義（労働衛生技術の能力育成）
村田 勝敬	特別講師	産業中毒学
吉川 悦子	特別講師	特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）

帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラム 時間割表

平成28年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土							
4月																																					
5月																																					
6月																																					
7月																																					
8月																																					
9月																																					

講義の日程は変更となる場合がございます

※基礎生物統計学（振替可能科目）は、水曜日の講義とは一部内容が異なります。（6/4,6/11,6/18の土曜集中講義）受講希望の者は事前に科目責任者と相談のこと。

帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラム 時間割表

平成28年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
10月			産業保健														産業保健							産業保健								産業保健	
			産業保健		リダマネ							リダマネ						産業保健		リダマネ					産業保健		リダマネ					産業保健	
11月							産業保健																										
		リダマネ					産業保健		リダマネ														産業保健										
12月																																	
1月																																	
2月																																	
3月																																	

講義の日程は変更となる場合がございます

16. 授業計画（シラバス）

• 疫学概論	…	23
• 基礎生物統計学	…	24
• 基礎生物統計学（振替可能科目）	…	25
• 産業保健学	…	26
• 産業環境保健学実習（産業保健高度人材養成実習）	…	27
• 実地研究	…	28
• 産業環境保健学概論	…	29
• 産業中毒学	…	30
• リーダーシップ・マネジメント論	…	31
• 特別講義（メンタルヘルス専門職のスキルアップ）	…	32
• 特別講義（労働衛生技術の能力育成）	…	33
• 特別講義（産業保健師マネジメント能力育成）	…	34
• 特別講義（産業環境保健学）	…	35
• 環境アセスメント実習	…	36
• 実践特別セミナー（統括産業医養成）	…	37

科目名	疫学概論	必修	15 コマ
-----	------	----	-------

科目責任者	矢野 榮二 教授
-------	----------

開講年度	28年度	配当学期	前期	曜日・時限	木曜 3、4時限	授業方法	講義・演習
------	------	------	----	-------	----------	------	-------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な思考方法の基礎となり、合理的な意思決定に必須の疫学の考え方を修得する。 各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。
------	---

授業の概要	<p>疫学研究方法論の基礎について学ぶ。疫学の定義、因果関係の立証法、疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にはじまり、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を学ぶ。観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について学ぶ。また、介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システムティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて学ぶ。なお各日、講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/14(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	医学と疫学:今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
	2	4/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	仮説と因果関係:科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
	3	4/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	疫学研究の分類:仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
	4	5/12(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	チャンスとバイアス:誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
	5	5/19(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	健康指標:疫学で用いられる健康指標の定義、算出方法、活用手法について学ぶ。
	6	5/26(木)	3-4	山岡 和枝 教授	疫学と統計学:疫学で用いられる主要な統計手法を学ぶ。
	7	6/2(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	記述疫学と横断研究:記述疫学と横断研究の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
	8	6/9(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	症例対照研究:症例対照研究(case-control study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
	9	6/16(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	コホート研究:コホート研究(cohort study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
	10	6/23(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	介入試験、無作為比較対象試験:介入試験(intervention study)および無作為比較対象試験(RCT)の方法と実例を学ぶ。
	11	6/30(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	メタアナリシス:メタアナリシス(metaanalysis)・システムティックレビュー(系統的レビュー)の手法と実例を学ぶ。
	12	7/7(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	スクリーニング:スクリーニングの考え方、信頼性、応用について学ぶ。
	13	7/14(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	Study Critique:疫学研究・論文の批判的吟味の考え方と方法を学ぶ。
	14	7/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	疫学研究計画立案:具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。
	15	7/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	疫学と公衆衛生:まとめとして、公衆衛生における疫学の役割と貢献について学ぶ。

※30コマのうち、15コマ以上を受講すること。

事前準備	教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
------	---------------------

テキスト	・篠原出版新社『ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版』
------	--------------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・木原雅子他訳『医学的研究のデザイン』メディカルサイエンスインターナショナル ・Kenneth J. Rothman著『ロスマンの疫学 第2版』篠原出版新社
-----	---

科目名	基礎生物統計学	必修	15 コマ
-----	---------	----	-------

科目責任者	山岡 和枝 教授
-------	----------

開講年度	28年度	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 1、2時限	授業方法	講義・演習
------	------	------	----	-------	----------	------	-------

到達目標	臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎を学習し、さらに統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、簡単なデータ解析を行うことができる能力を修得する。講義と演習により、医学研究論文を批判的に読むために必要な統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。
------	---

授業の概要	講義前半は実例を中心として、医学研究で得られる様々なデータについて、無作為割付とデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定(信頼区間)と仮説検定の概念を理解する。臨床試験で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を学ぶ。サンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。より応用的な解析手法については、幅広く入門的な知識を学習する。さらに講義後半では、基礎生物統計学で学んだ内容を演習形式で習得する。主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。課題に対するレポートを作成し、発表する。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/13(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学 SASの使い方
	2	4/20(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
	3	4/27(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
	4	5/11(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
	5	5/18(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
	6	5/25(水)	1-2	山岡 和枝 教授	回帰分析
	7	6/1(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
	8	6/8(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
	9	6/15(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
	10	6/22(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
	11	7/1(金)	1-2	根本明日香 講師	分散分析・多重性の調整
	12	7/6(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が連続変数の場合の共変量調整(共分散分析・重回帰分析)
	13	7/13(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
	14	7/20(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
	15	7/27(水)	1-2	根本明日香 講師	学習内容のまとめ・補充・演習、または試験
補習	8/3(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	講義を受けてわからなかった点、もう少し詳しく知りたい点についての質問を受け付ける。また、課題研究であるなしにかかわらず自分の研究についての統計相談を受け付ける。	
※30コマのうち、15コマ以上を受講すること。					

事前学習準備	講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。 さらに2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
--------	---

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後俊郎著『医学への統計学 第3版』朝倉書店 2013 ・適宜資料を配布する。
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後俊郎著『統計学のセンス 医学統計学シリーズNo.1』朝倉書店 1998 ・DJ Altman著 木船義久・佐久間昭訳『医学研究における実用統計学』サイエンティスト社 ・TDV Swinscow, MJ Campbell著 折笠秀樹監訳『はじめて学ぶ医療統計学』総合医学社
-----	--

科目名	基礎生物統計学（振替可能科目）
-----	------------------------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
開講年度	28年度	配当学期	前期	曜日・時限	集中講義	授業方法	講義・演習

到達目標	<p>研究の目的に応じた研究デザインをたて、適切な解析を行い、結果をまとめ解釈するという一連のプロセスにおいて、もつとも基礎となるのは生物統計学と疫学の考え方である。ここでは生物統計学について、臨床研究を実施する上で基本となるデータの要約、推定・検定の考え方、連続量の平均値の比較、頻度の比較、生存時間の比較、それぞれの交絡要因の調整について、その理論とSASを用いた実際の解析を修得することを目的とする。</p>
------	---

授業の概要	<p>生物統計学について、臨床研究を実施する上で基本となるデータの要約、推定・検定の考え方、連続量の平均値の比較、頻度の比較、生存時間の比較、それぞれの交絡要因の調整について、その理論とSASを用いた実際の解析を行う。受講者は、この講義を修得することにより、基本的な臨床研究デザインによる研究計画をたて、それに応じた解析法を選択し、実際にSASを用いて分析し結果をまとめられるようになることが期待される。</p> <p>※本講義は、大学院医学研究科の「臨床統計学」の講義である。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/4(土)	3	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データの要約、SASの使い方
	2	6/4(土)	4	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	検定・推定の考え方
	3	6/4(土)	5	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	連続量の比較:2群の平均値の差の検定
	4	6/11(土)	3	山岡 和枝 教授 根本明日香 講師	連続量の交絡調整:分散分析、共分散分析、重回帰分析
	5	6/11(土)	4	山岡 和枝 教授 根本明日香 講師	頻度の比較:2群の比率の差の検定と疫学研究での指標の検定
	6	6/11(土)	5	山岡 和枝 教授 根本明日香 講師	頻度のデータの交絡調整:ロジスティック回帰分析
	7	6/18(土)	3	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	生存時間の比較:生存時間の推定と検定
	8	6/18(土)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	生存時間の交絡調整:コックス回帰分析
※上記講義8コマの出席と課題の提出(7コマ分)により「基礎生物統計学」の受講とみなす。					

事 学 前 習 準 備	<p>講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。 さらに2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。</p>
----------------------------	---

テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後俊郎著『医学への統計学 第3版』朝倉書店 2013 ・適宜資料を配布する。
------------------	---

参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後俊郎著『統計学のセンス 医学統計学シリーズNo.1』朝倉書店 1998 ・DJ Altman著 木船義久・佐久間昭訳『医学研究における実用統計学』サイエンティスト社 ・TDV Swinscow, MJ Campbell著 折笠秀樹監訳『はじめて学ぶ医療統計学』総合医学社
-------------	--

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	産業保健学	必修	15 コマ
-----	-------	----	-------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

開講年度	28年度	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 1、2時限	授業方法	講義
------	------	------	--------	-------	----------	------	----

到達目標	産業医や産業看護師等の産業保健(労働衛生)を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につける。
------	--

授業の概要	労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医や産業保健師等の必要性が高まっている。一方、特に実務能力に関して、高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機関は絶対的に不足している。そこで、こうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医や産業保健師を育成するためのカリキュラムを提供する。具体的には、労働衛生関連法規ならびに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学び、選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍出来る人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業保健師としての人材育成を目指す。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/26(月)	1	谷原 真一 教授	産業保健学とは何か 安全配慮義務/労働安全衛生法令と5管理/産業保健専門職の役割
	2	9/26(月)	2	杉澤 誠祐 講師(非)	統括産業医の実務 大規模製造業における産業保健活動
	3	10/3(月)	1	福田 吉治 教授	健康管理 健康保持増進、快適職場、職場の喫煙対策、データヘルス計画、健康経営
	4	10/3(月)	2	原 邦夫 教授	作業環境管理・作業管理1 産業保健(労働衛生)における5管理と作業環境管理・作業管理
	5	10/17(月)	1	小木 和孝 教授(客)	産業保健の世界動向
	6	10/17(月)	2	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取り組み
	7	10/24(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令の体系 リスクアセスメントと労働安全衛生マネジメントシステム/リスクコミュニケーション_ラベル化とSDS
	8	10/24(月)	2	谷原 真一 教授	リスク判定_産業衛生学会・許容濃度委員会 リスクの概念/判定指標/許容濃度、管理濃度など様々な基準
	9	10/31(月)	1	福田 吉治 教授	職場巡視と安全衛生委員会
	10	10/31(月)	2	福田 吉治 教授	メンタルヘルス対策
	11	11/7(月)	1	福田 吉治 教授	産業保健専門職のマネジメント能力、産業看護保健師の役割
	12	11/7(月)	2	原 邦夫 教授	作業環境管理・作業管理2 環境アセスメントツールとしての簡易測定装置
	13	11/14(月)	1	原 邦夫 教授	労働衛生工学1 産業保健の取組みの優先順位化、作業環境測定、工学的対策としての局所排気装置1
	14	11/14(月)	2	原 邦夫 教授	労働衛生工学2 工学的対策としての局所排気装置2
15	11/21(月)	2	原 邦夫 教授	産業保健学のトピックと全体のまとめ	

事前準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』を事前に読んでおく。
------	------------------------------

テキスト	毎回授業開始時に資料として配布する。
------	--------------------

参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』
-----	---------------------

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	産業環境保健学実習(産業保健高度人材養成実習)	必修	15 コマ
-----	-------------------------	----	-------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

開講年度	28年度	配当学期	夏期(8月)	曜日・時限	4日間	授業方法	実習
------	------	------	--------	-------	-----	------	----

到達目標	産業環境保健学概論の講義で学んだ成果を活かす場として実際の現場を巡視する。現場の巡視を通して、環境を評価・改善するための視点を獲得する。				
授業の概要	企業内で、あらかじめ設定された騒音・粉じん・暑熱等の有害な環境を実際に巡視し、必要に応じて改善の方法等を検討する。				
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	8/22(月)	1	原 邦夫 教授 高橋 謙造 准教授	職場の有害因子と健康障害およびその対策案／ 職場巡視と安全衛生委員会
	2	8/22(月)	2	福田 吉治 教授 高橋 謙造 准教授	ケースに基づく模擬安全衛生委員会A
	3	8/22(月)	3	高橋 謙造 准教授	職場巡視A
	4	8/22(月)	4	高橋 謙造 准教授	職場巡視A
	5	8/23(火)	1	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
	6	8/23(火)	2	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
	7	8/23(火)	3	原 邦夫 教授	全体討論
	8	8/23(火)	4	原 邦夫 教授	A職場についてのまとめ
	8	8/29(月)	1	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場の有害因子と健康障害およびその対策案／ 職場巡視と安全衛生委員会
	9	8/29(月)	2	福田 吉治 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	ケースに基づく模擬安全衛生委員会B
	10	8/29(月)	3	杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視B
	11	8/29(月)	4	杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視B
	12	8/30(火)	1	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
	13	8/30(火)	2	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
14	8/30(火)	3	原 邦夫 教授	全体討論	
15	8/30(火)	4	原 邦夫 教授	B職場についてのまとめ	
事前準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』の作業環境管理の章を事前に読んでおく。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』				

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	実地研究				必修	30 コマ
科目責任者	研究指導教員(AA)					
開講年度	28年度	配当学期	通年	曜日・時限	-	授業方法 実習
到達目標	自身の現場の課題について、問題の定式化、疫学的・統計学的・産業保健学的な解析、課題についての対策案の作成、対策の実施、実施内容についての評価、これらの一連の能力を獲得する。					
授業の概要	<p>年間を通して、研究指導教員およびリサーチアシスタントの支援を受けながら、自身が直面している課題を問題解決型アプローチで取組み、解決策を適用し、その評価も行う。</p> <p>各人に研究指導教員を1名配置し、定期的の実地研究指導・助言を受けながら実地研究を進める。自身の現場の課題について、問題の定式化を行い、疫学的・統計学的・産業保健学的に解析していくことで、課題についての対策案を作成する。そして、その対策を実施し、実施内容について評価を行う。夏期に計画段階での発表(中間発表)、冬期に最終発表を行い、年度末に最終報告書を提出する。</p> <p>実地研究における問題解決型の対処(問題解決型アプローチ)とは、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することを意味する。具体的な問題解決型アプローチは、課題形成、問題の分析、解決策立案、解決策実施、および評価の項目で構成されている。実地研究の発表、報告書はこの評価の項目に沿ってまとめることとなる。</p>					
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容	
	<p>テーマ毎に研究指導教員と受講生間にて授業日程(指導日程)を個別に設定する。</p> <p>実地研究に関する中間発表会と最終発表会を実施し、発表および報告内容から評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション : 平成28年4月1日(金) ○実地研究相談期間 : 平成28年4月1日(金)-4月21日(木) ○研究テーマ提出 : 平成28年5月27日(金) ○中間発表会 : 平成28年9月初旬(予定) ○報告書 一次提出 : 平成29年1月末(予定) ○最終発表会 : 平成29年2月中旬(予定) ○報告書 最終提出 : 平成29年3月4日(土) <p>(上記日程に関しての詳細は別途指示)</p>					
※個別に設定した授業日程(指導日程)のうち、30コマ(45時間)以上受講すること。						
事 学 前 習 準 備	適宜、各研究指導教員より指示あり。 実地研究相談期間に向けて、自分の職場の課題について整理しておく。					
テ キ ス ト	適宜、提示する。					
参 考 書	適宜、提示する。					

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	産業環境保健学概論				選択	8 コマ	
科目責任者	原 邦夫 教授						
開講年度	28年度	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義・演習
到達目標	<p>産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い、産業保健・環境保健についての包括的認識を持つ。そのためにも、この分野の第一線級の経験を聞く。 より専門的・実践的には、夏期および後期開講の選択科目の「産業保健学」、「環境保健学」および「産業環境保健学実習」で学ぶ。</p>						
授業の概要	<p>産業医学の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ、各種の職域健診制度により、産業医学はそれを専門としない者も含め、多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。そこで必ずしも産業医学を専門としない公衆衛生の実務家のために、基本的な産業保健の制度・法・組織および産業中毒学の概要を学ぶ必要がある。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解する必要がある。</p>						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	1	4/12(火)	1	矢野 榮二 教授	職場・環境中の有害因子による健康障害 健康概念、健康障害と予防対策		
	2	4/19(火)	1	杉澤 誠祐 講師(非)	産業医による産業保健A 大規模製造業の事業場における有害因子と健康障害および予防対策		
	3	4/26(火)	1	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取組み		
	4	5/10(火)	1	東川 麻子 講師(非)	産業医による産業保健B 中小企業の産業保健活動の立ち上げ方		
	5	5/17(火)	1	福田 吉治 教授	健康管理 健康診断、健康保持増進、快適職場		
	6	5/24(火)	1	中原 浩彦 講師(非)	化学的有害因子__有機溶剤 有害因子の中の化学的有害因子の有機溶剤と健康障害および予防対策		
	7	5/31(火)	1	神山 宣彦 講師(非)	物理的有害因子__石綿 有害因子の中の物理的有害因子の石綿(アスベスト)と健康障害および予防対策		
	8	6/7(火)	1	原 邦夫 教授	産業・環境のリスク評価・管理 リスクアセスメントに基づくリスク管理方法		
事前準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』の第III章および最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。						
テキスト	毎回授業開始時に資料として配布する。						
参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』						

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	産業中毒学	選択	8 コマ
-----	-------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授
-------	----------

開講年度	28年度	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 3、4時限	授業方法	講義
------	------	------	--------	-------	----------	------	----

到達目標	産業有害因子による健康障害を系統的に学ぶことで、健康障害を環境因子との関係で考えられるようになる。様々な作業環境について、そこにおける健康障害を想起、診断する能力を身につけるとともに、その管理を行えるようになる。
------	--

授業の概要	産業現場でひとが有害要因にばく露することにより特異的、非特異的な健康障害がひき起こされることがある。このコースでは代表的な産業有害要因について現場でのばく露態様、管理、規制および新規の問題の発見と研究について考える。 受講にあたっては一定の基礎知識と能力および毎回の事前準備が必要であるので、受講しようとする者は科目責任者と事前の話し合いを持つこと。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	11/16(水)	3	矢野 榮二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類
	2	11/16(水)	4	矢野 榮二 教授	〃
	3	11/28(月)	3	中原 浩彦 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理
	4	11/28(月)	4	杉澤 誠祐 講師(非)	〃
	5	11/30(水)	3	矢野 榮二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定)
	6	11/30(水)	4	矢野 榮二 教授	〃
	7	12/7(水)	3	矢野 榮二 教授	金属、発がん物質
	8	12/7(水)	4	矢野 榮二 教授	〃
	9	12/14(水)	4	宮川 宗之 教授	生殖毒性
	10	12/14(水)	5	宮川 宗之 教授	〃
	11	12/21(水)	3	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫
	12	12/21(水)	4	熊谷 信二 講師(非)	〃
	13	12/28(月)	3	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース
	14	12/28(月)	4	村田 勝敬 講師(非)	〃
15	2/8(水)	3	矢野 榮二 教授	まとめ	

※15コマのうち、8コマ以上を受講すること。

事前学習準備	講義前週に事前学習の指示。
--------	---------------

テキスト	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』
------	---------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・中央災害防止協会『目で見える職業病と労働環境』 ・Peter J Baxter, et al. 『Hunter's Disease of Occupations』 Hodder Arnold. ・William A. Burgess 『Recognition of Health Hazards in Industry: A Review of Materials Processes』 1995/1/9 Wiley-Interscience ・Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas 『Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; Sixth edition』 Oxford University Press ・Curtis Klaassen John B. Watkins III 『Casarett & Doull's Essentials of Toxicology, Second Edition』 McGraw-Hill Professional
-----	--

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	リーダーシップ・マネジメント論	選択	8 コマ
-----	-----------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授
-------	----------

開講年度	28年度	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義
------	------	------	--------	-------	--------	------	----

到達目標	<p>1. 人間組織一般について説明できる</p> <p>2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる</p>
------	--

授業の概要	<p>医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。</p> <p>本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/21(水)	2	中田 善規 教授	導入
2	9/28(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ	
3	10/5(水)	2	中田 善規 教授	組織の質の改善	
4	10/12(水)	2	中田 善規 教授	人材管理戦略	
5	10/19(水)	2	石川ひろの 講師(非)	患者・医療者間のコミュニケーション	
6	10/26(水)	2	石川ひろの 講師(非)	医療コミュニケーションの評価と実証研究	
7	11/2(水)	2	石川ひろの 講師(非)	グループ・組織内コミュニケーション	
8	11/9(水)	2	石川ひろの 講師(非)	メディアを通じたコミュニケーション	

事前学習	指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
------	---------------------------

テキスト	各授業で予習すべき文献を指定する。
------	-------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices』 Harper 1973 岩崎夏海著 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 ダイヤモンド社 2009年P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳 『エッセンシャルズ版マネジメント—基本と原則』 ダイヤモンド社 2013年
-----	---

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	特別講義(メンタルヘルス専門職のスキルアップ)				選択	8 コマ	
科目責任者	福田 吉治 教授						
開講年度	28年度	配当学期	夏期(8月)	曜日・時限	2日間	授業方法	講義(集中)
到達目標	<p>現在最大の課題となっている職場のメンタルヘルスの課題に対し、産業保健師として必要となるメンタルヘルス対策における現場での実践力を獲得する。さらに、メンタルヘルスの課題対策を通し、職場全体の産業保健のアセスメント・マネジメントができる能力を獲得する。</p>						
授業の概要	<p>わが国の産業構造が変化した結果、筋労作よりは精神的な緊張を伴う業務に従事するものが増えるなど就業の中身も変化し、過重労働による健康障害、特に精神障害の労災認定申請者数は大幅に増加している。これを受け、平成23年厚労省は「精神障害の労災認定」の認定基準を見直し、心理負担の強度を含めた具体例を示すに至っている。とくに、この厚労省の認定基準で示された心理負担の強度を含めた具体例をケースとして活用した議論を行う。そして、一次予防としての「職場ドック」を用いての演習を行う。</p>						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	1	8/10(水)	1	福田 吉治 教授	職場のメンタルヘルス対策の現状と国の取組		
	2	8/10(水)	2	山崎 恭子 教授	職場のメンタルヘルス対策における産業保健師の役割/ 精神科医・産業医・産業保健師の役割		
	3	8/10(水)	3	磨田百合子 講師(非)	実際の職場のメンタルヘルス対策の現状と取組の例		
	4	8/10(水)	4	高辻(戸谷) 由布子 講師(非)	過労死、メンタルヘルス不調者等に関連した訴訟および対処方法		
	5	8/12(金)	1	福田 吉治 教授	産業ストレスの理論と応用		
	6	8/12(金)	2	吉川 徹 准教授(客) 吉川 悦子 講師(非)	職場ドックの解説・実施方法		
	7	8/12(金)	3	竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習1		
	8	8/12(金)	4	竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習2		
事前準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』の職場におけるメンタルヘルス対策等、関連個所を事前に読んでおく。						
テキスト	特に指定しない。必要に応じて配布する。						
参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』						

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	特別講義(労働衛生技術の能力育成)	選択	8 コマ
-----	-------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

開講年度	28年度	配当学期	夏期(8月)	曜日・時限	2日間	授業方法	講義(集中)
------	------	------	--------	-------	-----	------	--------

到達目標	作業環境の有害要因の測定および管理で現在行われている作業環境測定の仕組みや排気システムを学習し、さらに有害要因へのばく露レベルの測定方法についても学習し、結果として選択すべき対策方法を理解する。さらに、新規有害要因への対応としてのリスク管理の適用能力を獲得する。
------	---

授業の概要	作業環境から人を守るためには、環境からの有害影響をその要因から理解するとともに、それらの測定・評価・対策を実施することが重要である。作業環境に存在する様々な有害要因の測定・評価を理解した上で、具体的なケースに基づいて、選択すべき環境制御技術について学習する。産業工学分野としては、作業環境管理・作業管理で用いられる物質の代替、局所排気装置や全体換気装置等の工学的対策、作業方法、ならびに保護具の使用等について学習する。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	8/24(水)	1	原 邦夫 教授	日本式産業保健(労働衛生)の3管理・作業環境管理と管理区分および対策の手順・作業環境管理・作業管理・健康管理・代替・工学的対策・保護具
	2	8/24(水)	2	原 邦夫 教授	ばく露推定モデルの活用方法
	3	8/24(水)	3	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方 (ハザード情報の収集、国連GHS勧告によるハザード分類)
	4	8/24(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(コントロールバンディング)
	5	8/31(水)	1	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方 (ばく露測定、ばく露とばく露限界値との比較、LOAELなどからばく露限界値の推定方法等)
	6	8/31(水)	2	橋本 晴男 講師(非)	産業保健(労働衛生)の専門職のあり方
	7	8/31(水)	3	原 邦夫 教授	局所排気装置 (局所排気装置の概要、計算演習、風量測定・評価)
	8	8/31(水)	4	吉川 徹 准教授(客)	保護具・人間工学的対策

事前学習準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
--------	---------------------------------------

テキスト	特に指定しない。必要に応じて配布する。
------	---------------------

参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』
-----	---------------------

科目名	特別講義(産業保健師マネジメント能力育成)				選択	8 コマ	
科目責任者	山崎 恭子 教授						
開講年度	28年度	配当学期	夏期(7月)	曜日・時限	2日間	授業方法	講義(集中)
到達目標	<p>企業における産業保健業務を遂行するにあたって多種様々な能力が要請されることから、産業保健師として職場の産業保健課題を抽出し、対策案を考え、他職種と合意形成を図り、対策実施をリードし、対策実現ができる能力を獲得する。すなわち、職場の個人の問題を超え、職場や工場あるいは事業場全体の健全性をアセスメントし、対策を検討し、その対策案を実施するための科学的分析能力やコミュニケーション能力およびリーダーシップ・マネジメント能力を獲得する。</p>						
授業の概要	<p>企業での産業保健師の経験もある実務者教員を中心に、ケースを用いた講義・演習とする。産業保健師の倫理、企業意思決定のルール、他職種との合意形成、プレゼンテーション技術等について、ケースを用い、講義と演習を組み合わせ、グループディスカッションを行う。</p>						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	1	7/23(土)	1	杉澤 誠祐 講師(非)	産業保健とは・産業医の役割・産業看護職との連携、望む役割		
	2	7/23(土)	2	高辻(戸谷) 由布子 講師(非)	産業保健に関する判例		
	3	7/23(土)	3	山崎 恭子 教授	地区診断とアセスメントモデルについて		
	4	7/23(土)	4	掛本 知里 講師(非)	コミュニティパートナーモデルを活用した職場のアセスメントについて		
	5	7/30(土)	1	山崎 恭子 教授 磨田百合子 講師(非) 掛本 知里 講師(非) 伊藤 雅代 講師(非)	職場のアセスメント演習 (情報の取り方)		
	6	7/30(土)	2		職場のアセスメント演習 (情報の分析)		
	7	7/30(土)	3		職場のアセスメント演習 (課題の抽出と計画)		
	8	7/30(土)	4		職場のアセスメント演習 (グループ発表)		
事前準備	自分の職場で経験した事例を整理し、とくに解決に至らなかった事例について考察しておく。						
テキスト	特に指定しない。必要に応じて配布する。						
参考書	・河野啓子監修 『新版 すぐに役立つ産業看護アセスメントツール』 法研						

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	特別講義(産業環境保健学)	選択	8 コマ
-----	---------------	----	------

科目責任者	Stefanos Kales客員教授(※)
-------	-----------------------

開講年度	28年度	配当学期	冬期(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	講義(集中)
------	------	------	--------	-------	------	------	--------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の有害物質や一般的な有害要因(石綿、鉛、発がん物質、反復動作等)へのばく露で発生した疾患の診断と管理について、説明できる。 ・ 化学物質や有害要因の器官系への初期の影響についての調査やスクリーニングの方法について、説明できる。 ・ 損傷や障害の程度評価の方法について、説明できる。 ・ 産業保健の政治的側面について、理解を深める。
------	--

授業の概要	<p>産業現場で起こる様々な産業保健上の課題の中で、アスベストによる中皮腫や水銀・鉛による重金属中毒など産業医学の課題を取り上げて講義を行い、産業医学的な課題と産業保健的な対策について理解を促す。さらに関連したケースについて、グループに分かれて議論させ、意見をまとめて発表することで、実際に現場で対策が考えられるように理解を深めさせる。</p>
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	(後日通知)		Stefanos N. Kales 教授(客)	1. コース入門 (第1章・産業保健:21世紀の課題とチャンス、第2章・労働災害と公害の認識と予防)
	2			Stefanos N. Kales 教授(客)	2. 産業および環境の歴史 (第28章・産業環境保健の臨床的な取組み) 3. 健診および健康調査の原則 (第3章・産業・環境関連の健康調査) #. ケース1
	3			Stefanos N. Kales 教授(客)	1. がん (第17章・がん)
	4			Stefanos N. Kales 教授(客)	2. 精神ストレスと反復性外傷 (第16章・筋骨格系疾患、第27章・産業人間工学:作業設計で安全と健康の増進) #. ケース2
	5			Stefanos N. Kales 教授(客)	1. じん肺 (第18章・呼吸器疾患、第26章・産業環境保健)
	6			Stefanos N. Kales 教授(客)	2. 心疾患と作業 (第23章・心疾患) #. ケース3
	7			Stefanos N. Kales 教授(客)	1. 他の職業性の肺疾患 (第7章・室内空気汚染、第18章・呼吸器疾患)
	8			Stefanos N. Kales 教授(客)	2. 金属、有機溶剤、化学物質の緊急事態 (第11章・化学物質の危険有害性、第19章・神経疾患および精神疾患、 第25章・毒性学、第37章・災害救助および復興のための作業者の保護) #. ケース4

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※具体的な授業日時については、毎年10月頃までに設定されます。決まり次第、通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開されるので授業前に教材を読んでおくこと。
------	--

テキスト	ハーバード大学公衆衛生学大学院が帝京大学と共同で作成したケースをコースの専用ホームページ上に掲載する。
------	---

参考書	基礎となる最新の科学論文をコースの専用ホームページに掲載する。
-----	---------------------------------

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	環境アセスメント実習	選択	8 コマ
-----	------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授		
開講年度	28年度	配当学期	夏期(8月)
			曜日・時限
			2日間
			授業方法
			実習(集中)

到達目標	作業環境測定および個人ばく露測定についての基本的理解をした上で、職場環境のアセスメントができるように、簡易な測定機器についての基本的な活用能力を獲得する。
------	---

授業の概要	<p>職場における重要な産業保健管理として、作業環境管理、作業管理、健康管理がある。作業環境管理のための専門的な作業環境測定は、作業環境測定士によって行われることが義務づけられているが、騒音や照度あるいは温熱条件等は、作業環境測定士によることが義務づけられてはいない。</p> <p>近年は廉価で高度な測定機器が開発されるに至っていることから、基本的な環境測定機器を実際に操作し、測定し、温熱測定・照度・騒音・粉じん・放射線・化学物質についての基本的な職場環境のアセスメントができるように演習を行う。さらに、職場環境のリスクアセスメントを行うために、専門家の作業環境測定士による測定結果を理解し活用できるような実習とする。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	8/8(月)	1	原 邦夫 教授	作業環境管理のための作業環境測定
	2	8/8(月)	2	原 邦夫 教授	温熱環境測定・照度
	3	8/8(月)	3	中原 浩彦 講師(非)	検知管、PID (有機溶剤)
	4	8/8(月)	4	中原 浩彦 講師(非)	粉じん、CO、CO2
	5	8/9(火)	1	原 邦夫 教授	放射線
	6	8/9(火)	2	吉川 徹 准教授(客)	タイムスタディーと人間工学的計測
	7	8/9(火)	3	中原 浩彦 講師(非)	騒音
	8	8/9(火)	4	原 邦夫 教授 中原 浩彦 講師(非)	作業環境管理 (再度の測定器を使った測定・評価)

事前準備	中央災害防止協会『労働衛生のしおり』の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
------	---------------------------------------

テキスト	特に指定しない。必要に応じて配布する。
------	---------------------

参考書	・中央災害防止協会『労働衛生のしおり』
-----	---------------------

【産業保健高度専門職養成の大学院プログラム】

科目名	実践特別セミナー(統括産業医養成)				選択	8 コマ	
科目責任者	谷原 真一 教授						
開講年度	28年度	配当学期	夏期(8月)	曜日・時限	2日間	授業方法	演習(集中)
到達目標	複数産業医が存在する企業において、会社のプログラム方針を踏まえ、産業医業務を統括し、産業保健全般をマネジメントする能力を獲得する。						
授業の概要	産業現場で起こっている様々な問題で解決に至った取り組みについて実務家教員が取組前の状態を説明し、討論を経て学生の案をまとめさせ、実際の解決策とを比較検討する。						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	1	8/5(金)	1	谷原 真一 教授	姿勢・倫理 産業医としての活動姿勢・行動・倫理、個人情報保護		
	2	8/5(金)	2	福田 吉治 教授	対象理解 産業保健サービスの対象理解・ニーズに応じた産業保健サービスの提供、職場巡視、多様性への理解と配慮		
	3	8/5(金)	3	高辻(戸谷) 由布子 講師(非)	法遵守 法令遵守、法廷闘争・訴訟にかかわる支援		
	4	8/5(金)	4	福田 吉治 教授	健康管理・健康増進 健康診断の企画・実施・評価、健康診断の事後措置、ヘルスプロモーション、適正配置、母性保護、救急時対応、災害対策・危機管理		
	5	8/6(土)	1	杉澤 誠祐 講師(非)	組織と産業医 産業保健組織の確立、組織の管理、産業保健サービスの品質管理・スタッフの教育、産業保健組織の予算編成・経費管理、委員会、診断や治療、主治医と産業医の関係等		
	6	8/6(土)	2	杉澤 誠祐 講師(非)	産業保健におけるリスクアセスメントとリスクマネジメント (労働安全衛生マネジメントシステム:文書作成・計画・記録:産業保健活動の方針と計画と目標、手順書等の作成、記録管理・情報管理)		
	7	8/6(土)	3	小木 和孝 教授(客)	国際産業保健機関、ILO条約、発展途上国の産業保健の現状		
	8	8/6(土)	4	谷原 真一 教授	科学的研究		
事前準備	自分が産業医として関わった課題を新たに整理し、解決に至った場合および解決に至らなかった場合毎に考察しておく。						
テキスト	適宜、提示する。						
参考書	・産業医学振興財団 『産業医の職務Q&A 第10版』						

平成28年度 産業保健プログラム 受講科目申請書

提出日 平成 年 月 日

学籍番号

学生氏名



	科目名	時間数(h)	受講登録	受講登録時間(h)
必修科目	疫学概論	22.5		
	基礎生物統計学	22.5		
	基礎生物統計学(振替可能科目)	22.5		
	産業保健学	22.5		
	産業環境保健学実習(産業保健高度人材養成実習)	22.5		
	実地研究	45.0		
選択科目	産業環境保健学概論	12.0		
	産業中毒学	12.0		
	リーダーシップ・マネジメント論	12.0		
	特別講義(メンタルヘルス専門職のスキルアップ)	12.0		
	特別講義(労働衛生技術の能力育成)	12.0		
	特別講義(産業保健師マネジメント能力育成)	12.0		
	特別講義(産業環境保健学)	12.0		
	環境アセスメント実習	12.0		
	実践特別セミナー(統括産業医養成)	12.0		
※提出は4月21日(木)までとします。			総時間数	

研究指導教員
(アカデミックアドバイザー)

氏名



帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラム

平成28年度 産業保健プログラム 受講科目変更届

提出日 平成 年 月 日

学籍番号

学生氏名

㊞

下記のとおり受講科目の変更を申請いたします。

	受講科目名称	時間数(h)	変更後(該当に○印)
1			受講 ・ 取り消し
2			受講 ・ 取り消し
3			受講 ・ 取り消し
4			受講 ・ 取り消し
5			受講 ・ 取り消し
6			受講 ・ 取り消し
7			受講 ・ 取り消し
8			受講 ・ 取り消し

研究指導教員
(アカデミックアドバイザー)

氏名

㊞

事務部記入欄

受付日:

処理日:

帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラム



**Brush up Program
for professional**